

令和3年度文京区アカデミー推進協議会  
第4回分科会(学習活動、文化芸術)概要記録

日 時	令和3年8月25日(水) 18:00～20:00
会 場	オンライン開催 (Zoom)
出席委員	座長 田中 雅文 増田 純、三浦 武裕、牧野 恒良、増田 みゆき、田口 稔己、 柳下 幸一、今井 瑛里子、高橋 由貴子、山内 豊
欠席委員	高澤 芳郎
事務局	細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長 齊藤嘉之真砂中央図書館館長 諸久子アカデミー推進課アカデミー推進係長 鈴木直人アカデミー推進課文化事業係長 浅野美紀アカデミー推進課文化資源担当室長 (ふるさと歴史館長)
資料	資料1 学習活動分野の施策体系等 参考資料1 令和3年度 事業調査結果A 生涯学習分野 参考資料2 令和3年度 事業調査結果B 生涯学習分野
(議事) 1 議題  ◎委員意見 ◆事務局説明	<p>1. 学習活動分野の施策体系等について 資料1に基づき、学習活動分野の施策体系等について説明。</p> <p><u>(1) 学習活動の定義について</u></p> <p>◎趣味は学習ではないと考えている人がいるので、冒頭で「趣味や生きがい」と明示するとそうした人の意識も変わっていくと思う。</p> <p>◎昨日は、夏休み親子教室の約1か月にわたる稽古の成果を披露する発表会だった。学習活動をやる目的が明確になればなるほど、しっかりとした講座や教室ができると実感した。そのため、最初の目標付けは非常に大切であると思った。世間的に中止や延期が多くなっている中で、このようにやれば実施できるということを示せたのは良かった。</p> <p>◆定義としてはおおむね良いと思っている。ただし、1点修正したい点がある。3行目の右端「区の実施する様々な啓発活動事業等に参加することも学習活動」とあるが、実施する主体は区だけではないので、区以外も含めた表現としたい。</p> <p><u>(2) 現状と課題について</u></p> <p>◎2点ある。1点目は「②オンラインを活用した学習機会の提供と支援」について、記載内容に賛成である。特に新しい技術を生かした学びの提供が求められていることと、オンラインと対面の相乗効果を生むような新しい手法が求められていることが指摘されている点が良い。改定時における画期的な施策につながると思う。学習講座等はZoomを活用したものが主流になっているが、今後、数年で新しい手法が出てくるのではないかと考えている。こうした点に力を入れてほしい。2点目は「①誰もが参加しやすい学習機会の提供」についてである。後段で「区民に身近な地</p>

域の学習の場となる必要があります。」としている。この点が7月の資料とは少し表現が異なる。この表現では現在は学習の場になっていないと思われる。7月の資料では「さらなる活用が必要です。」としていたので、その方がよい。

- ◎すでに区の生涯学習に関するサービスは充実していると思っている。ただし、区民がそれを本当に良く知っているか気になる。区民がサービスの種類やアクセスの仕方を知ることができる環境になっているのかという点で、一歩前進する必要がある。そうした問題意識を入れてほしい。問題意識はその都度、個人の環境や機会によって発想が変わってくるのではないかと思う。
- ◎文京区が提供しているアカデミア講座などは、ホームページ等から確認できるが、それ以外に文京区が提供しているものについては、インターネットで検索しなければならない。全てではなく主要な事業だけでも集約し、関連サイトのリンクをつけておくなどすると学習が促進される。

### (3) 施策体系の考え方について

- ◎学びのスタイルが多様化し、オンラインも含め、様々な形で学ぶ機会が増えている。様々な選択肢がある中で、それを選ぶのも1つの権利という雰囲気がある。親としては、支援や環境づくりをありがたく思うが、これを選ぶ方向にもっていかなくてはならないと思う。公立中学校では、入学時から受験の意識が強いため、地域に関する学習は少ない。小学校の方が地域に根差した学習の側面が強かった。ただし、図書館等を使ったかと言えばそうではないかもしれない。
- ◎女性団体の常任委員は高齢化しており、オンラインに苦勞している。高齢者はデジタルが苦手な人は多い。環境づくりとして、発信側と受け取る側の双方で勉強が必要になる。
- ◎コロナ禍における重要な施策として、さきほどご指摘のあったオンラインでの学習をしやすくなるようなサポートをする、またはオンライン学習のノウハウを提供する事業というのは①のイにあたるか。またはウにあたるのか。
- ◆5ページがイのところになるが、後段の2行目に「デジタルデバインド対策としての講座の実施など、学習を始める際の課題に対応できるよう取組を推進します。」としている。

### (4) 基本方針と施策の方向性について

#### **【基本方針①について】**

- ◎イについて、主な事業として「生涯学習の相談」があり、区内の生涯学習の情報の拠点としての役割を果たしている。(公財)文京アカデミーの窓口であるため、アカデミア講座の情報だけ提供していると思っている人がいるが、それ以外の生涯学習のことも答えている。現在は、隣接区の区民講座でその区の住民以外も受けられる講座があるため、相談員が勉強中である。また、アカデミア講座を受講する高齢者の方で、オンラインが苦手な方は窓口で相談してもらえれば、相談員とミニトレーニングができる取組を始めている。ただし、生涯学習相談自体が知られていない。

◎アカデミー推進計画に基づく生涯学習事業のほとんどは、(公財)文京アカデミーが行っている。全体として、今後事業をどのように推進していくかが重要である。文京区は、生涯学習を区民と一緒に作っている全国的にも稀有な例であるが、行き詰まりの感がある。コロナ禍において、Zoomなどによって様々な新しい展開があった。オンラインと対面のハイブリットができないかという話もあるが、講師として両方に取り組んでいくのは難しい面がある。生涯学習をはじめとして、様々な分野でICTを活用することによって、新しい展開ができるのではないかと。今回のメルクマールとして出ていた多様性については、今の段階では資料に出ていないように感じる。

◎地域の学習拠点としての図書館づくりについて、図書館が多くあり、蔵書やオンラインサービスも充実して嬉しく思うが、今後の施策として、文京区役所も図書館機能を持っていたらと思う。現在は返却ポスト等で返すことはできるが、受け取ることはできない。受け取り機能があると、忙しい人や図書館までは普段行かない人も本に親しめると思う。

#### 【基本方針②について】

◎「いつでもどこでもだれでも学べる環境づくり」について、学びが講座の中だけではないと思っている。道路に面したところを道のギャラリーとして活用し、行き交う人に見てもらっている。道のギャラリーで絵画を展示していると、子どもたちから「絵が変わっているよ」という声が聞こえてくるなど、絵をよく見てくれるようになった。小さな取組であるが地域に貢献できないかと思ってやっている。

◎地域の資源を活かすという項目があったと思うが、私の住んでいる地域は印刷に関わる小さな事業者が多くいる。そうした地域のことを勉強してもらうのは良いと思う。

◎イの「活動の成果を発揮できる場の充実」について、生涯学習フェアが主な事業として挙げられているが、文化祭もここに入るのか。絵画や書道をシビックセンターで行っていると思う。生涯学習フェアでは場所と時間が限られており、発表できるグループが数少ないと思う。この部分は抜本的に拡充しても良いのではないかと、文化祭等もここに入るのかどうかを質問した。

◆文化祭は文化芸術分野にあたるため、そちらの事業としており、学習活動分野では入れていない。ただし、確かに見方によってはそれも考えられるのかと思った。生涯学習フェア以外に発表の場について、既存事業で何か入っているかと言われれば、これといってないのが現状である。場の充実を図るために、新しいものを考えていかなければならない。

◎公民館がある地域では公民館まつりを行っている。公民館に登録している書道や絵画などの自主サークルのグループがあり、そうした団体が公民館まつりで発表する。それらは社会教育分野であるので、我々が言う学習活動分野である。アカデミー推進計画では文化芸術分野の成果の発表は文化芸術に入るのか。

◆そのとおりである。

◎趣味の活動というのは学習活動であり、その成果の発表は非常に重要である。2つ

	<p>の分野にまたがるという意味で、柱は文化芸術でも、再掲という形で学習活動分野でも位置付けても良いのではないかと。</p> <p>◆事業調査結果Bという資料があると思う。その9ページに「活動成果披露の場の充実」という項目があり、「いきいきシニアの集い」「敬老の日施設開放」「福祉センター祭り」などが記載されている。右側に担当課が示されているが、福祉関連の課室で多く行われている。区全体で捉えると発表の場に関する事業を行っているということになる。</p> <p><b>【基本方針③について】</b></p> <p>◎区民プロデュース講座の選定は、アカデミア学習推進委員会の中の選定委員会が行っている。区民プロデュース講座ができてから長い、区民が生涯学習で学んだことを地域に還元していく非常に良い講座である。ただし、10年近く携わっている中で、企画自体に区民が安心して受講できないようなものが出てきており、選定の上で難しく感じている。また、講師自身が企画したくても、新型コロナウイルス感染症への罹患が不安で申請を取りやめたり、これまでうまく運用されてきたシステムが非常に難しい状況に直面している。区民プロデュース講座は対面が原則だが、申請の際にオンライン講座でも対応可能か確認している。</p> <p>◎地域づくりと学びの循環に関心をもってやってきたが、それも対面が原則である。対面の中での学びと、グループや人材ネットワークの中での地域づくりがこれまでの中心であった。オンラインをどう活用するかという中で、学ぶことと地域づくりの循環について、これから考えなければならぬと痛感している。オンライン型の地域づくりが、色々と行われてきた時に、それを支える学びの場というものもあると思う。オンラインと地域づくりと学びを合体させたようなものが、これから非常に重要になってくると思う。</p>
2 閉会	